



最終年度となる 2017 年度の IBM 健保組合の第 1 期データヘルス計画では、過去 2 年間の実績等を踏まえて実施した各種事業および健康課題への対策、取り組み状況、その効果等についてご報告します。



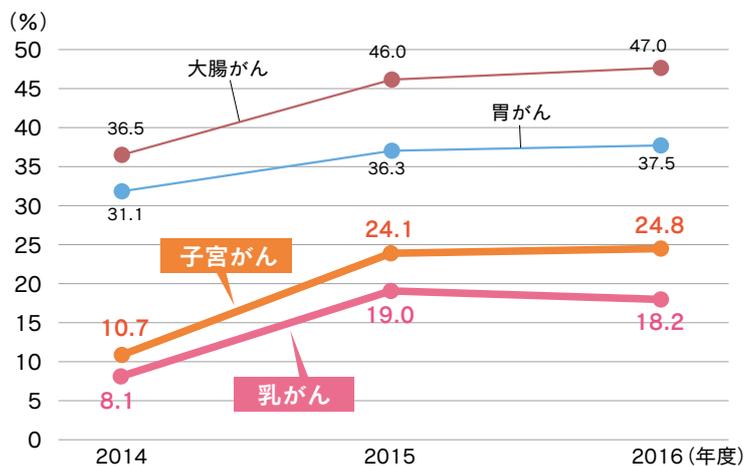
健康課題 婦人科のがん検診受診率の向上

女性特有のがんといえば子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）、乳がん、卵巣がんがありますが、このうち子宮頸がんと乳がんは科学的根拠のある検診が確立しています。子宮頸がんは子宮頸部細胞診、乳がんはマンモグラフィ検査がこれにあたります。My Health 95 号でお伝えしたように、特に乳がんの医療費や受診者数が増加傾向にあることから、検診の受診率向上が喫緊の課題となっており、IBM 健保組合ではその対策に取り組んでいます。

Report 1 婦人科検診受診率の現状

国は第 3 期のがん対策推進基本計画でがん検診の受診率目標を 50%としており、IBM 健保組合もこれに準拠し、データヘルス計画では各がん検診の受診率目標を同じ 50%としています。しかし、グラフのように婦人科検診の受診率は著しく低いのが現状です。なお、国の指針に基づき IBM 健保組合では、40 歳以上の女性が受けたマンモグラフィ検査を乳がん検診の受診率としています（自治体を実施する検診やかかりつけの婦人科で検診を受けている場合、40 歳以上で乳房超音波検査を受けている場合は含まない）。

●がん検診の受診率（全対象者）



Report 2 受診率低迷の原因と対策

受診率が伸び悩んでいる一因として、特に現役社員は定期健診と同時に受診できなかったことがあげられます。そのため 4 月から、健康増進センター（箱崎）では子宮頸がん検診とマンモグラフィ検査を社員の定期健診や家族健診と同日に受診可能とし、利便性を向上させました。さらに、検査は高い精度を確保しています（表を参照）。

乳がん検診はマンモグラフィ検査と従来から実施している乳房超音波検査のいずれかを選択できますが、40 歳以上の方はマンモグラフィ検査が有効ですので、積極的にご利用

用ください。

また、健康増進センターでは子宮頸部細胞診と HPV 検査（ヒトパピローマウイルス）の併用検診を実施しています。子宮頸がんは性交渉による HPV 感染が持続することで発症しますので、細胞診ではがんになりそうな細胞があるかどうかを調べ、さらに HPV 検査では危険なウイルスに感染しているかどうかを調べます。

※ HPV 検査は、現役社員は 30 歳以上の方へ自動追加されます。家族健診対象者は有料にて追加できます。

●健康増進センター（箱崎）で実施する婦人科検診

子宮頸部細胞診	従来の細胞診検査では採取した細胞をスライドグラスに塗っていましたが、増進センターでは液状検体で検査します。液状検体は良好な標本を作れるので病変を見逃すことがないことが特徴で、世界中に普及している方法です。
マンモグラフィ検査	マンモグラフィの撮影は 1 方向では入りにくい部分があります。増進センターでは 2 方向から撮影することで乳房全体を写し、病変の描出の漏れを防ぎます。

